



練馬のみどりを未来につなぐ



練馬区は、都心近くに立地しながら、公園や農地など豊かなみどりに恵まれた住宅都市です。区ではみどりを守り未来に残していくために、さまざまな取組を進めています。みどりを育む区民協働の活動、みどりあふれる練馬ならではの文化芸術、練馬の魅力である都市農業についてご紹介します。

◆みどりを守るための取組とみどりの中で楽しめる文化芸術

練馬のみどりの現状

練馬区は武蔵野の面影を伝える屋敷林や広々とした農地、特色ある公園や街路樹など、多様なみどりに恵まれています。公園や街路樹の整備、樹林地の保全を進めてきた結果、公共のみどりは増加しています。一方、区のみどりの約4分の3を占める民有地（宅地・農地・社寺等）のみどりは、税負担や相続などにより一貫して減少を続けています。

区では、練馬のみどりに満足している区民の割合80%を目指し、「みどりのネットワークの形成」「みどりを育むムーブメントの輪を広げる」の取組を推進しています。

練馬のみどりを守り育む 区民協働の輪

練馬区では、みどりを守り育むための区民協働が進んでいます。

区内に45か所ある「憩いの森・街かどの森」（樹林地を所有者から借用し区民に開放している市民緑地）では、9か所で区民団体による活動が行われています。樹林地の清掃などに加え、親しみをもってもらえるよう、自然観察会や森の特性を生かしたイベント等も開催しています。また、現在28か所の公園で地域の町会等による自主管理が行われています。

さらに、公園や区立施設などにある花壇やプランターを区民に管理してい

ただ「区民協働花壇事業」を進めており、現在、63団体が75か所の花壇やプランターを管理し、日々工夫を凝らしながら個性豊かな花壇を作っています。

令和3年度からは、民有地のみどりを地域で守り支える取組として、区民ボランティアとの協働による「落ち葉清掃」を実施しています。昨年度は延218名の参加がありました。アンケートによると、参加者の約9割が活動に満足し、今後も継続したいとの回答があり、区民がみどりに関する活動に参加するきっかけとなっています。

こうしたみどりを育むムーブメントの輪を広げるため、令和4年度から、活動に参加したい方と活動の現場をつ

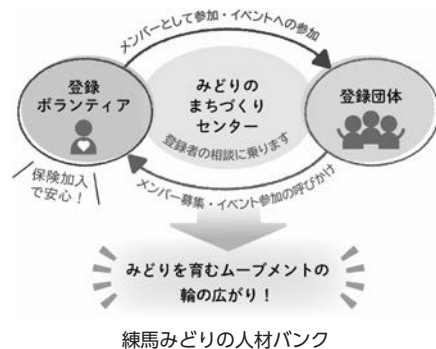


花壇管理活動



憩いの森の区民管理活動

なげる人材登録制度「練馬みどりの人材バンク」を始めています。



みどりを生かした 特色ある公園がたくさん！

区内にはみどりを生かした特色ある公園が多くあります。令和3年度に大幅なりニューアルをした「四季の香ローズガーデン」では、四季折々に五感でバラを楽しむことができます。

ほかに、NHKの連続テレビ小説「らんまん」のモデルである、牧野富太郎博士（植物分類学者／練馬区名誉区民）の住居と庭の跡地を一般公開している「牧野記念庭園」、みどりに囲まれて泥遊びや畑づくりなど自由に遊べる「こどもの森」、大きな芝生と屋根付広場がある「大泉学



四季の香ローズガーデン



こどもの森



牧野記念庭園



大泉学園町希望が丘公園

園町希望が丘公園」などがあります。みどりのネットワークの拠点づくりを進める長期プロジェクトとして、稲荷山公園は「武蔵野の面影」、大泉井頭公園は「水辺空間の創出」をテーマに、整備に向けた取組を進めています。

みどりの中で優れた 文化芸術を楽しめるまち

練馬区は、みどりあふれる都市にふさわしい、暮らしの中で優れた文化芸術を楽しめるまちを目指しています。

「みどりの風 練馬薪能」は、平成28（2016）年から開催しています。名誉区民で人間国宝の野村万作さん、重要文化財保持者の梅若万三郎さんのほか、区内在住の多くの能楽師が出演。石神井の森を背景に、揺らぐかがり火のもと、光と影のコントラストが鮮やかな、しかも幽玄な趣のある舞台です。

今年から開催する「ねりまの森の音楽祭」は、ヴァイオリニストの大谷康子さんプロデュースによる野外音楽祭です。みどりに豊かな公園で音楽を楽しみ、マルシェやキッチンカーで練馬のとれたて野菜や区内飲食店の人気料理を味わえます。

このほかに、NHK交響楽団との共演で「音楽の旅」をテーマにした「真夏の音楽会」や、アーティストと子どもたちが交流し体験するイベント「こどもアートアドベンチャー」など、練馬区には、豊かなみどりの中で優れ

た文化芸術が楽しめるイベントがいくつもあります。



真夏の音楽会



みどりの風 練馬薪能

◆生きた農と共存するまち練馬

都市農業は練馬の魅力！

東京という大都市の都心近くに立地しながら、練馬区では生活と融合した生きた農業が営まれています。多くの農業者が、近隣住民に自慢の農産物を新鮮な状態で食べてもらうため、畑の一角に直売所を設置しています。採れたての野菜が近所で買えるとあって近隣住民の評判もよく、旬のおいしい農産物を手に入れようとする方々にぎわっています。

こうした直売所の魅力を発信するため、区では、直売所情報を見ることが出来るアプリ「とれたてねりま」をリリースしています。

また、区では、農業者と区民が触れ合う「ねりマルシェ」の開催をはじめ、区民が農に親しめるさまざまな取組を実施しています。



アプリ「とれたてねりま」



練馬区の旬に出会えるマルシェ



いろいろな野菜が買える直売所

練馬区発祥の農業体験農園

区に18園ある農業体験農園は、平成8年度に区内農業者が立ち上げました。利用者は農園主の丁寧な指導を受けながら、種まきや苗の植付けから収穫までの一連の農作業を体験し、農家の直売所に並ぶ野菜と同レベルのおいしい野菜を収穫できます。作業に必要な道具や種はすべて農園にそろっているため、自分の身支度だけで行けばよい手軽さも魅力です。

農業体験農園は近隣住民に都市農業への理解を深めることに加え、農業者と利用者間の交流の輪を広げ、コミュニティづくりの場にもなっています。



農業体験農園で学ぶ様子

家族連れに大人気！

練馬果樹あるファーム

区内ではブルーベリー、ブドウ、ミカン、キウイフルーツ、カキ、イチゴなど、たくさんのお果物が栽培され、四季折々の果物を味わうことができます。「摘み取り園」と「直売所」が生活に身近な場所であり、気軽に楽しめるので、「練馬果樹あるファーム」と名づけました。区では、摘み取り園と直売所情報のほか、農園周辺の飲食店等のスポット情報も盛り込んだ「練馬果樹あるファーム」紹介冊子を制作しており、観光案内所などで配布しています。また、今年10月からは野菜版の「ねりまベジかるファーム」もスタートしました。



練馬果樹あるファーム紹介冊子

都市農業を未来へつなげる 高松みらいのはたけ

農業を気軽に体験できる施設として今年3月にオープンした「高松みらいのはたけ」。今年度は枝豆、とうもろこし、ミニトマトなどの夏野菜や練馬大根を種まきから収穫まで体験できる栽培体験コースや、収穫体験イベントを実施しました。今年12月には区内屈指の人気イベント「練馬大根引っこ抜き競技大会」の会場にもなります。

「高松みらいのはたけ」の近くには、平成27（2015）年に開校した「農の学校」があります。ここは援農ボランティア「ねりま農サポーター」を育成するための施設で、受講生は援農に必要な農作業や知識を学んでいます。

農業者と障害者がつながる ねりまの農福連携

農福連携とは、農業者と障害者施設などの福祉団体が連携し、障害者等の農業分野での就労や生産活動等を支援する取組です。人手不足解消や販路拡大を求める農業分野と障害者等の働く場と生きがいの場の確保を求める福祉分野の連携が、現在注目されています。

す。練馬区では農業者と障害者施設が連携し、ジャムやピクルスなど果物や野菜を使った加工品の製造販売を中心に、農福連携の取組を進めています。区内の障害者施設が製作した商品は、パンフレット『ねりいち』やポータルサイトで紹介しています。また、障害者が農作業の補助を行う取組も始まっています。



農の学校



高松みらいのはたけ



ねりいちポータルサイト

全国都市農業フェスティバルを開催

令和5（2023）年11月19日、東京都立光が丘公園を会場に「全国都市農業フェスティバル」を開催します。令和元年度に開催した「世界都市農業サミット」（ニューヨーク、ロンドン、ジャカルタ、ソウル、トロントの5都市から農業者、研究者、行政担当者を招いた学術会議）の成功のもとに、都市農業に積極的に取り組む自治体や農業者とともに都市農業の魅力を広く発信し、さらなる都市農業振興を図ることが目的です。国分寺市、松戸市、名古屋市、京都市の4都市など、24の自治体が、練馬区と一緒にフェスティバルを盛り上げます。

フェスティバル当日は、練馬産の採れたて野菜や果物に加えて、普段なかなか手に入らない全国各地の農産物や加工品を販売します。全国の農産物を使った料理を販売するキッチンカーの出店のほか、全国の都市農業者とゲストによるトークライブ「発見！もっと楽しい都市農業」（午前の部）、「都市農業“推しトーク”～都市農業のこれからを語り合う～」（午後の部）も開催します。



販売コーナー



キッチンカー